

北海道ユキワリソウ雑録（3）

武田久吉以後

大正2年（1913年）の武田久吉の日本のサクラソウ属のモノグラフ発表から少し遡った1905年、F. Pax と R. Knuth は Engler の Das Pflanzenreich : regni vegetabilis conspectus 22 において 385 頁にも及ぶ「Primulaceae」を発表し、そこで Primula 属を 21 の節に分け、P. farinosa を含む節は Farinosae 節とし、24 種を含めた。

P. farinosa については特別に広い分布域を持つことから、地理的に 4 亜種に分けられた。その一つが Subsp. modesta でシベリア東部 Ajan のものと日本のものをこれに含めた。

一方で、P. Fauriei と P. macrocarpa については P. cuneifolia などと合わせて Macrocarpae 節として合一してしまった。

明治40年（1907年）、牧野富太郎は飯沼慾斎の『草木図説』の図と記述に牧野の描いた花や果実の細部の図と図鑑的解説を補って『増訂草木図説 草部』を出版した。そこで牧野は

Primula farinosa L. Subsp. modesta pax. ヌキワリソウ

Primula farinosa L. var. Fauriae Miyabe ヌキワリコザクラ

とし、ユキワリソウについては Pax と R. Knuth の説を採り入れ、又 ヌキワリコザクラについては「日本産ゆきわりさう二種ノ記」での扱いのままとした。

明治後期になると志賀重昂やウォルター・ウェストンの影響を受けて登山が盛んに行われるようになり、日本で最初の山岳会が明治38年（1905年）に小島烏水や武田久吉らによって設立され、明治39年と41年（1906年と1908年）には『日本高山植物図譜』（第一巻・第二巻）が東京帝国大学教授三好學と牧野富太郎の共撰で成美堂から発行された。その第二巻にユキワリソウが彩色図とともに掲載されている。そこでの学名は Primula farinosa L. var. modesta Pax. であった。

大正14年（1925年）、牧野富太郎が北隆館から『日本植物図鑑』を出版する。1 ページに二種ずつ図と解説を掲載したコンパクトな本だ。

Primula modesta Biss. et Moore ヌキワリサウ

Primula modesta Biss. et Moore var. Fauriae Takeda ヌキワリコザクラの二種が載っている。1913年に武田久吉が日本の研究者としては初めて Bisset と Moore の独立種説を採り入れたが、牧野もこの書で初めて P. modesta を採用した。

しかし昭和3年（1928年）の牧野富太郎・田中貢一『科属検索日本植物誌』大日本出版では

P. farinosa L. subsp. *modesta* Pax ユキワリソウ

P. farinosa L. var. *Fauriei* Miyabe ユキワリコザクラ

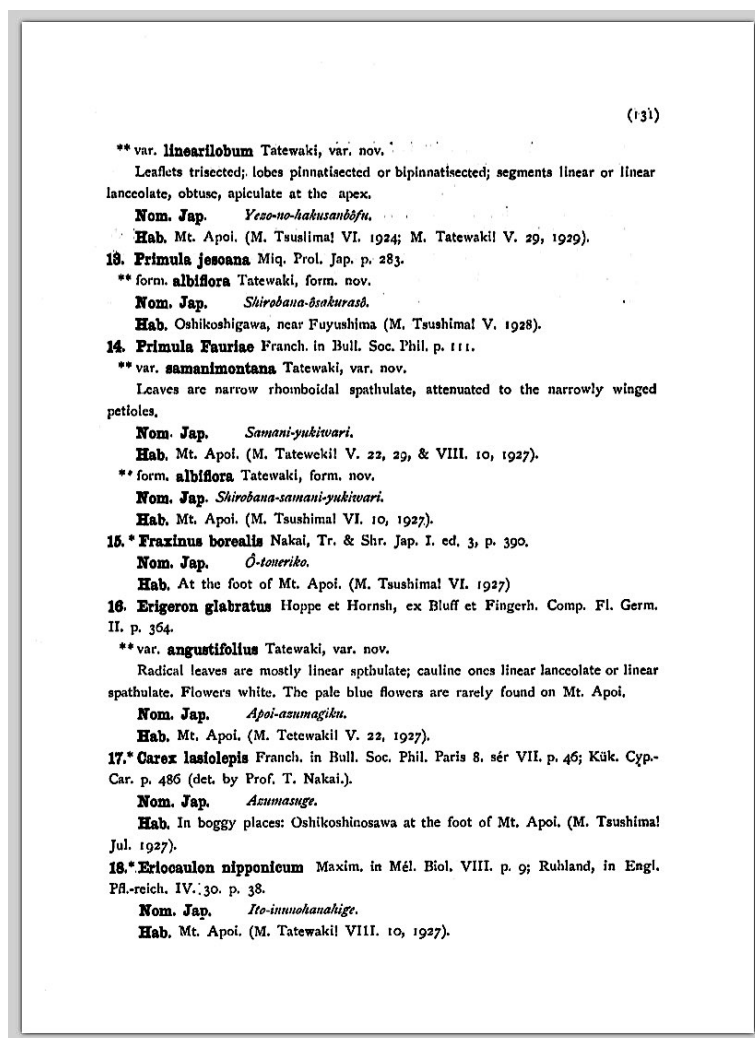
と再び元に戻した。

日本山岳会の設立メンバーは植物採集のために山に登る人たちが主であった。植物図鑑が普及し、植物研究の機運が教員など知識人の間に広まり、北海道関係でも小泉秀雄、菅原繁蔵、山本岩亀、対馬政雄といった人が教職の傍ら植物採集に情熱を傾け標本を大学の研究者に送るなどして研究の進展に貢献した。

北海道帝国大学農科大学の農学部で宮部金吾教授のもと、講師であった舘脇操は、当時アポイ岳の麓の冬島小学校長であった対馬政雄の採集した植物に着目し、昭和2年（1927年）から翌年にかけてアポイ岳に4回登山し、その特異な植物群を研究した。1928年、その結果をまとめて北海道帝国大学農学部 演習林研究報告 5に「日高様似アポイヌプリ植物」を発表。（下図）その中でユキワリコザクラの新変種を記載した。

Primula Fauriae (Franch.) var. *samanimontana* Tatewaki サマニユキワリ

その新変種たる特徴は「葉は狭い菱形状へら型であり、狭い翼のある葉柄へと細まる」とした。



館脇の発表によって、アポイ岳には低標高にもかかわらず、多数の高山植物や珍奇植物が生息していることが分かり天然記念物指定の機運が高まった。その結果内務省の嘱託を受けて東京大学の中井猛之進博士が現地調査を行い昭和5年（1930年）「日高國, 様似郡, アポイ山植物調査報告」を発表した。その植物リストには2種類のユキワリソウ類が掲載されている。

中井猛之進はユキワリコザクラに武田久吉のつけた学名を採用し、サマニユキワリはユキワリソウとユキワリコザクラとの中間に位置しているとして、館脇の *samanimontana* を *P. modesta* の変種に組み替えた。

Primula modesta Bisset & Moore var. *Fauriei* Takeda ユキワリコザクラ

Primula modesta Bisset & Moore var. *samani-montana* Nakai サマニユキワリサウ

中井猛之進は昭和7年（1932年）植物学雑誌542号において、「Notulae ad Plantas Japoniae & Koreae XLI」を発表し、その中でサハリンからSection *Farinosae* に属する新種を記載した。学名は *Primula sachalinensis* Nakai 和名はカラフトユキワ



リソウとした。その時の副標本が王立エジンバラ植物園にあり、インターネットで公開されている。（上図）

昭和6年（1931年）、長野県の人で教職の傍ら各地の山岳を踏破し高山植物を研究した河野齡蔵が66歳の時に『日本高山植物圖説』を朋文堂から出版した。見開き片面に彩色図を配した美しい図鑑で、

P. farinosa L. subsp. *modesta* Pax ユキワリソウ

P. farinosa L. var. *Fauriae* Miyabe ユキワリコザクラ

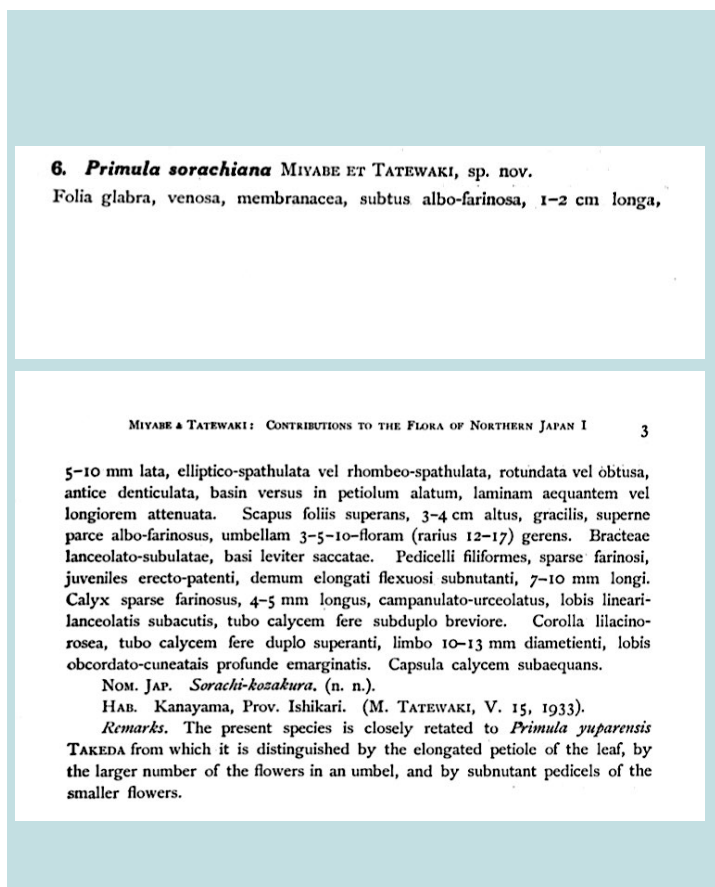
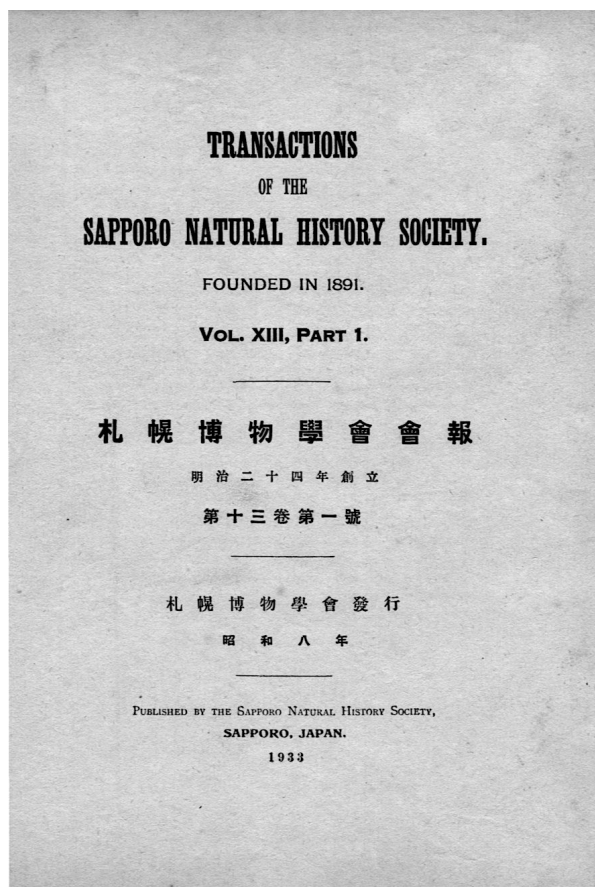
の二種が載っている。

昭和8年（1933年）、この年またもや北海道からユキワリソウ類の新発見が報告された。宮部金吾と舘脇操は札幌博物学会会報13（1）に「北日本植物誌料（一）」を発表し、そのなかで

Primula sorachiana Miyabe et Tatewaki ソラチコザクラ

を舘脇操が石狩金山で採った標本をもとに新種として発表した。（下図）

Remarks.として書かれた文を（retatedがrelatedの一字誤植として）訳してみると、本種は*Primula yuparensis* Takedaに密接に関係するけれども、葉から伸びる細長い葉柄、散形花序に着く花数の多さ、及び下方に少しうなだれた小花梗によって区別される、とある。



北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）より

昭和9年（1934年）、舘脇操は北海道景勝地協会から『北見礼文島植物概説』を出した。パンフレットのような薄い本だが、その中の植物目録でプティマンジンの記載した *Primula Matsumurae* Petit. にレブンコザクラという和名を与え、生態写真も初めて載せた。

ソラチコザクラが記載されたと同じ1933年、東京大学の学生であった原寛は中井猛之進教授の指導の元、日高南部の植物相を研究して卒業論文にするために冬島の旅館を根拠地として、夏秋の計3ヶ月間を歩き回った。

1934年から植物学雑誌に順次その成果を「Preliminary Report on the Flora of Southern Hidaka, Hokkaido (Yezo)」として発表。1936年の（XVI）において、ユキワリソウ類では、

Primula modesta var. *Fauriae* Takeda

P. modesta var. *samanimonta* Nakai

の2変種を報告した。そして末尾に、この二つの変種の区別は明瞭ではない、と付け加えた。

同じ昭和11年（1936年）、京都帝国大学講師となった武田久吉は養賢堂から出版されていた「動物と植物」の連載講座「日本の高山植物（XIII）」でサクラソウ属について書き、*P. modesta* Bisset et Moore ユキワリソウと *P. yuparensis* Takeda ユウパリコザクラを生態写真と共に取りあげた。

ユキワリソウについて「従来誤って欧州産の *P. farinosa* L. に充てられ、現今でもその説を踏襲することを喜ぶ人さへあるが、ユキワリサウは萼が彼種程膨大せず、苞も同然であり、葉裏その他に着く粉末は彼れの如く白色でない点で全く別種とすべきものである。北海道礼文島には、本種に似て壮大なレブンコザクラを産する。花色濃く、又その数多くて14-15個に上り、甚だ濃艶である。これは別種と見做すよりも、寧ろその變種として、*P. modesta* Biss. et Moore var. *Matsumurae* (Petitm.) の學名を興へるに如かないと考へる。」と書き、続けてユキワリコザクラについては「この種の花や果實の性質はユキワリサウと殆ど區別が出来ない程であるが、その葉は倒卵狀筩形で基部が急に狹まつて長い葉柄に流れ、葉縁は微に波状をなすか又は低い鈍齒牙を有するに過ぎず、且つ通例反卷することで區別される。種の限界を狹義に見れば別種であるが、廣義にとればユキワリサウの變種として、*P. modesta* var. *Fauriei* Takeda の學名を用ひるも宜しい。」と書いた。

またユウパリコザクラについてその特徴を述べた後、「本種は大正2年（1913）8月農學士柳澤秀雄氏が夕張山中に撿したもので、邦産種中ではユキワリサウに近いが、寧ろ欧州産の *P. farinosa* に近縁なもので、花が大きくて少数であり、花冠の筒部が萼よりも著しく長い点で區別出来る。」と書いた。

昭和15年（1940年）、宮部金吾と舘脇操は札幌博物学会会報16号において「Contribution to the Flora of Northern Japan XIII」を発表。

Primula Matsumurae Petit. レブンコザクラ

について詳しい整理を行い、そこでフォーリーが1892年に礼文島から得たタイプ標本よりも5年も古く増毛で採集されていた標本もその中に含め、またその分布の広がりには遠く択捉島にまで及ぶとした。

昭和15年（1940年）、牧野富太郎は満を持して『牧野日本植物圖鑑』を北隆館から出版した。現在まで70年以上にわたって様々な牧野図鑑が北隆館から出されているが、図と解説を隣合わせに並べるスタイルがこの図鑑で作られた。和名の由来についての解説が多く載るのも特徴の一つ。この図鑑では

P. farinosa L. var. *modesta* Makino ユキワリソウ

P. farinosa L. var. *Fauriae* Miyabe ユキワリコザクラ

を収録し、ユキワリソウの学名に新組合わせを提示した。

樺太で小学校の校長であった菅原繁蔵は教職の傍ら樺太の植物を研究し、1937年から1940年にかけて『樺太植物圖誌』全4巻を巖松堂書店から出版した。昭和15年（1940年）発行の第4巻にユキワリソウ類の2種が掲載されている。見開き2頁にわたって、片側に2種の解説、もう片側に実物大の2種の図が描かれている。

Primula Fauriei French. var. *ajanensis* Tatewaki et Kimoto トドシマコザクラ（海馬島特産）

Primula sachalinensis Nakai カラフトユキワリソウ（馬群潭泥火山地帯特産）

昭和16年（1941年）日本は太平洋戦争へと突き進み、1945年終戦を迎えた。植物の研究も苦難の時期であった。

一方イギリスでは王立エジンバラ植物園を中心にして、アジア奥地に派遣されたプラントハンターのもたらすプリムラを栽培し、その研究が連綿と続いていた。Sir. W. Wright SmithとH. R. Fletcherは1941年からプリムラ属の各セクション毎のモノグラフを次々と発表していたが、1943年、Transactions of The Royal Society of Edinburgh 61にThe Genus *Primula* : Section *Farinosae* を発表した。その中で日本(北海道)関係のものは、

P. Fauriae Franchet

P. modesta Bisset et Moore

P. Matsumurae Petitm.

P. sorachiana Miyabe et Tatewaki

P. yuparensis Takeda

の5種を提示した（但し、*P. Matsumurae*はシベリアAjanと済州島のものを指し、礼文島のものは*P. modesta*に含まれる扱いとなっている）。

Sir. W. Wright Smithはこの発表に遡る1928年に同じTransactions of The Royal Society of Edinburgh 16 にユキワリコザクラについての発表を行っている。残念ながらこの号は北海道大学の図書館で欠号となっていて、論文を見ることが出来なかった。1941年の論文によると、SmithとJ. Forrest は次のような学名を発表している。

P. modesta (Bisset et Moore) subsp. *Fauriae* (Franch.) Smith et Forrest

P. modesta (Bisset et Moore) subsp. *yuparensis* (Takeda) Smith et Forrest

それまでは、独立種（あるいは*P. modesta*の変種）扱いが主流であったが、この論文で初めて亜種の階級が採用された。しかし13年後再び独立種としての扱いに戻される。

この論文の中で、「エジンバラでは日本から受けた種子から3種とも栽培されており、オリジナルの診断と一致していること、また互いに全く別個なことが分かった。」「我々は*P. modesta*、*P. Fauriae*、*P. Matsumurae*の関係の問題を解決したと主張することはできない。（中略）完全な日本の資料だけがその位置を明確にすることができる。」とも述べている。

昭和24年（1949年）から1954年にかけて東京大学助教授原寛は『日本種子植物集覧』三冊を岩波書店から出版した。それまでに知られている日本の種子植物の学名とその発表された文献名、和名とその文献名、図の掲載された文献名、及び産地を科ごとに、学名のアルファベット順に整理したデータベースで、未完であったが、その「第一冊」にサクラソウ属が収録されている。

北海道関係（サハリンを含む）のユキワリソウ類で変種以上の標準学名を書き出すと以下のようなになる。

Primula modesta Bisset et Moore

var. *genuina* Takeda ユキワリソウ

var. *ajanensis* (E. Busch) Hara トドシマコザクラ

var. *Fauriae* (Franch.) Takeda ユキワリコザクラ

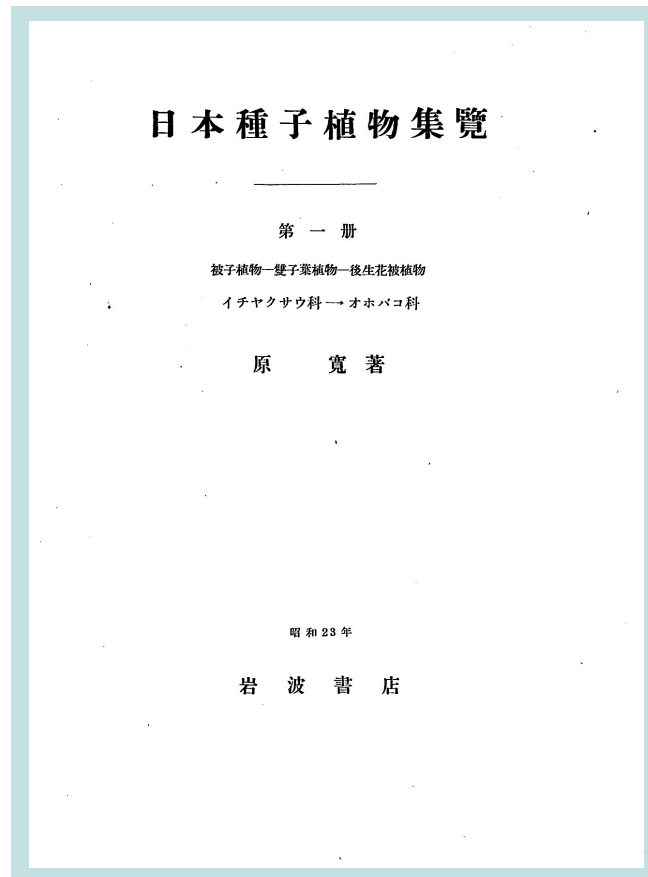
var. *Matsumurae* (Petitm.) Takeda レブンコザクラ

var. *samanimontana* (Tatewaki) Nakai サマニユキワリ

Primula sachalinensis Nakai カラフトユキワリソウ

Primula sorachiana Miyabe et Tatewaki ソラチコザクラ

Primula yuparensis Takeda ユウパリコザクラ



昭和25年（1950年）、武田久吉・田辺和雄・竹中要は北隆館から『日本高山植物圖鑑』を出版した。1頁に2種ずつ図（『牧野日本植物圖鑑』の図が多く使われている）と解説があり、北海道の関係するユキワリソウ類では

Primula modesta Biss. et Mre. ユキワリソウ

Primula yuparensis Takeda ユウバリコザクラ

が載っている。ユキワリソウの解説の註として、「禮文島には壮大で花の多いレブコザクラ（var. *Matsumurae* Takeda）が産する。北海道に多いユキワリコザクラ（subsp. *Fauriae* Sm. et Forr.）を亜種とし、サマニユキワリをその變種（var. *samani-montana* Tatew.）として取扱うのが合理的と考えられる。」とある。

昭和28年（1953年）、こんどは牧野富太郎が誠文堂新光社から『原色日本高山植物圖譜』を出版した。6種ずつ、見開き左に解説、右にカラー彩色図を載せた。

Primula yuparensis Takeda ユウバリコザクラ（パではなくバとなっている）

Primula modesta Bisset et Moore var. *Fauriae* Takeda ユキワリコザクラ

Primula modesta Bisset et Moore ユキワリソウ

の3種が掲載されている。

牧野は長くユキワリソウ類の基本種に*P. farinosa*を用いてきたが、この図鑑で初めて、別種*P. modesta*を基本種として採用した。

元京都帝国大学講師で、戦後復員して東京科学博物館（1949年からは国立科学博物館）の研究者となった大井次三郎は、1953年、それまでに知られていた日本の植物を網羅した『日本植物誌』を至文堂から出版した。学名（及び主なシノニム）と和名、属の解説、種への検索表、種と変種の解説そして分布が収録され、今日見る『改訂新版 日本の野生植物』などの図鑑の本文スタイルは、この書ですでに完成されている。北海道に分布するとされたユキワリソウ類は

Primura modesta Bisset et Moore ユキワリソウ

var. *Fauriae* (Franch.) Takeda ユキワリコザクラ

var. *Matsumurae* (Petitm.) Takeda レブンコザクラ

Primula yuparensis Takeda ユフバリコザクラ（パでなくバ）

Primula sorachiana Miyabe et Tatewaki ソラチコザクラ

原寛『日本種子植物集覧』と基本の学名は同じであるけれども、サマニユキワリについてはユキワリソウのシノニムとして、独立した変種としては採用しなかった

昭和30年（1955年）、北海道大学教授舘脇操は『枋内吉彦・福士貞吉両教授還暦記念論文集』に、「Geobotanical study of *Primula* in the islands of the North Pacific」を発表した。

北太平洋の島々（北海道、サハリン、千島列島、コマンドル諸島、アリューシャン列島）における植物地理学的研究なので、種の多様性とその各々の分布について詳細に書かれており、学名の変遷はそれほど詳しくは書かれていない。けれども、この研究は北海道のサクラソウ属についての総まとめでもあり、新組合わせも提出されているので、北海道だけでなく、その近辺も含めてユキワリソウ類の学名の扱いを抽出してみる。

Primula farinosa subsp. *sachalinensis* Tatewaki カラフトユキワリコザクラ（1932年中井猛之進によりサハリンから新種報告がなされたものを組み替え）

Primula modesta Bisset et Moore ユキワリソウ

subsp. *Fauriae* (Franch.) Smith et Forrest ユキワリコザクラ（Remarksとして、*Primula ajanensis*は*Primula modesta* subsp. *Fauriae*のただの矮性型に見える。と書き、サハリン海馬島のものをユキワリコザクラに合一した。）

var. *samanimontana* (Tatewaki) サマニユキワリ

subsp. *Matsumurae* Tatwaki レブンコザクラ（新組合わせ）

Primula sorachiana Miyabe et Tatewaki ソラチコザクラ

primula yuparensis Takeda ユウバリコザクラ（パではなくバ）

昭和31年（1956年）、牧野富太郎は『牧野日本植物圖鑑』（増補）で*Primula yuparensis* Takeda ユウバリコザクラを追加した。

昭和32年（1957年）、東京大学教授本田正次は『日本植物名彙』を恒星社厚生閣から出版した。学名と和名のみを整理羅列してある。

P. modesta Bisset et Moore ユキワリソウ
var. *Fauriae* Takeda ユキワリコザクラ
var. *Matsumurae* Takeda レブンコザクラ
var. *samanimontana* Nakai サマニユキワリ
P. sorachiana Miyabe et Tatewaki ソラチコザクラ
P. yuparensis Takeda ユウバリコザクラ

同じ1957年、京都大学教授北村四郎は村田源、堀勝と共著で、保育社から『原色日本植物圖鑑 草本編 (I) 合瓣花類』を出版した。生きた植物から写生した立体的で美しい植物画と、科から属へ、属から種への検索表も完備しており、草本編だけでも3巻となる本格的なカラー植物図鑑であった。

北海道関係のユキワリソウ類では、

Primula farinosa L. subsp. *modesta* (Biss. et Moore) Pax. ユキワリソウ
subsp. *Fauriae* (French.) Murata ユキワリコザクラ

Primula farinosa var. *xanthophylla* Trautv. et Mey. レブンコザクラ（シベリアユキワリソウ）

Primula farinosa subsp. *yuparensis* (Takeda) Kitam. ユウバリコザクラ
（パでなくバ）

P. sorachiana Miyabe et Tatew. ソラチコザクラ

そして、この図鑑で使用した二つの学名新組合わせについて、同年の「植物分類・地理 17 (1)」で「原色日本植物圖鑑草本編1(合瓣花類)に発表した新名及び新見解」と題して、正式な発表を行った。

昭和34年（1959年）、同じ保育社から武田久吉著『原色日本高山植物図鑑』が発行された。収録されているのは以下の2種。

Primula modesta Biss. et Mre. ユキワリソウ
var. *Matsumurae* Takeda レブンコザクラ

1962年には『続原色日本高山植物図鑑』が発行され

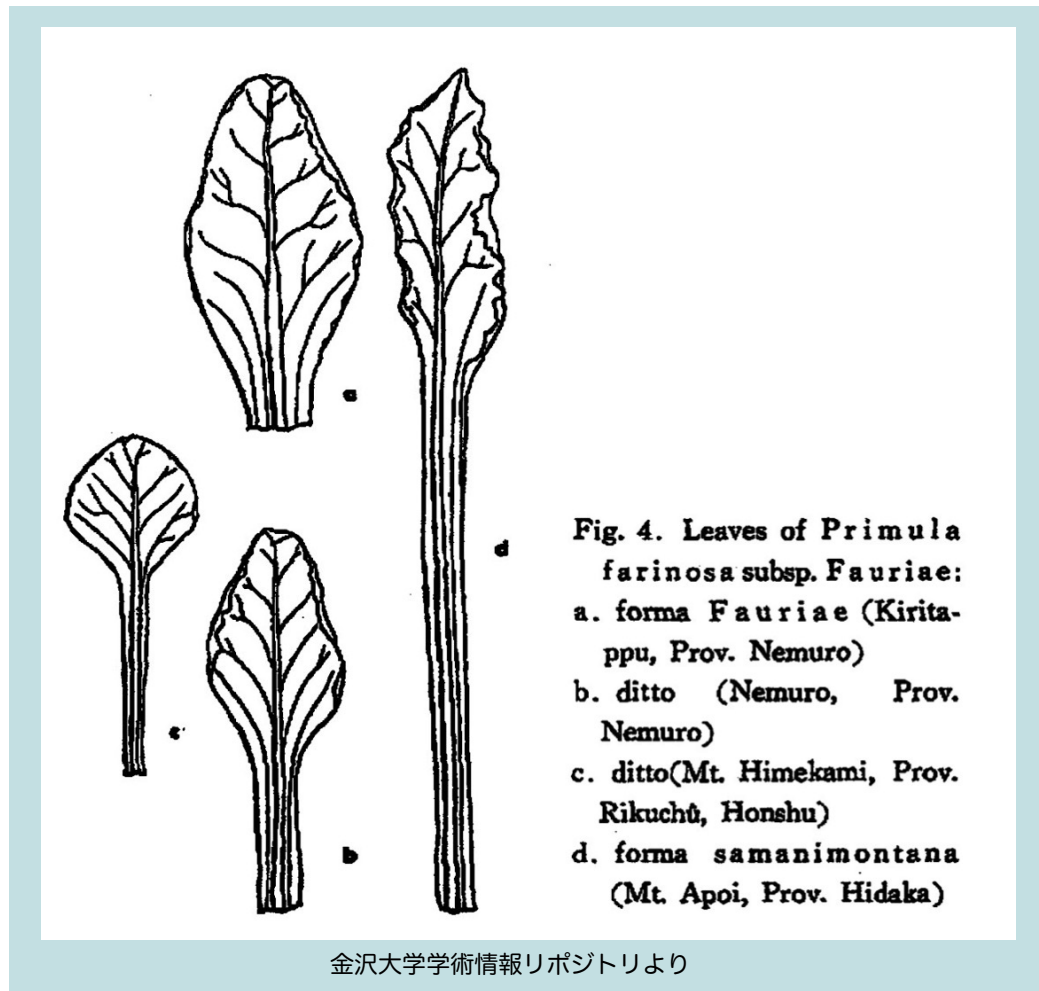
primula yuparensis Takeda ユウバリコザクラ
が収録されている。これらの図版に殆ど著者本人によって撮られたカラー生態写真が使われたことが大きな特徴となっている。

昭和35年（1960年）、北海道大学の博士課程の学生であった豊国秀夫は「北陸の植物 第9巻第1号」に「On the Ultrabasicosaxicolous Flora of Hokkaido, Japan (8)」を発表し、そこで北海道の超塩基性岩植物として4種類の*Primula*を挙げた。その中にユキワリソウ類が2つ入っている。

Primula farinosa Linnaeus subsp. *Fauriae* (Franchet) Murata forma *samanimontana* (Tatewaki) Toyokuni

Primura yuparensis Takeda

ここで、豊国は北村・村田の*P. farinosa* の亜種説に従い、サマニユキワリをその品種として新階級の組合せを作った。



日本の植物学の父とも呼ばれた牧野富太郎が昭和32年（1957年）死去し、1961年、東京大学教授前川文夫、東京大学教授原寛、お茶の水大学教授津山尚の責任編集で、『牧野日本植物圖鑑』を増補改訂した『牧野新日本植物圖鑑』が北隆館から発行された。北海道に関係するユキワリソウ類は以下の通り。

Primula yuparensis ユウバリコザクラ（パでなくバ）

Primula modesta Bisset et Moore ユキワリソウ

Primula modesta Bisset et Moore var. *Fauriae* Takeda ユキワリコザクラ
何故かソラチコザクラは収録されていない。

昭和38年（1963年）、保育社から武田久吉著『原色日本高山植物図鑑』の増補改訂版が発行され、学名が変更された。

Primula modesta Biss. et Mre. ユキワリソウ

Primula Matsumurae subsp. *Takeda* レブンコザクラ

昭和40年（1965年）、大井次三郎著『日本植物誌』至文堂に改訂新版が出された。

Primura modesta Bisset et Moore ユキワリソウ

var. *fauriei* (Franch.) *Takeda* ユキワリコザクラ

var. *matsumurae* (Petitm.) *Takeda* レブンコザクラ

Primula yuparensis *Takeda* ユウバリコザクラ（パでなくバ）

Primula sorachiana Miyabe et Tatewaki ソラチコザクラ

上記のように学名に若干の改訂がなされた。またソラチコザクラについて「北海道（石狩：金山）にはえ前種の低地にはえた一型とも思われる。」と末尾に新たにコメントをつけた。

この『日本植物誌』の初版は同年『Flora of Japan』として英訳もなされ、インターネットで全てを見ることが出来る。

昭和44年（1969年）、北日本学院大学教授豊国秀夫は「北日本学院大学紀要 1号」に「Alpine Florula of Mt. Shari, Provs. Kitami and Nemuro, Hokkaido, Japan」を発表。その中の植物目録でユキワリコザクラの一新品種の記載を行った。

Primula modesta Bisset et Moore var. *fauriae* (Franchet) *Takeda* forma *ohtakei* Toyokuni et Nokasa

和名 シャリコザクラ（大竹英次郎・豊国秀夫・野坂志朗）

記載の最後で「この愛らしいサクラソウは、長い葉柄と非常に細い針状の総苞葉を有することによりユキワリコザクラと区別される。」と締めくくっている。

1960年の論文ではユキワリコザクラの学名を*P. farinosa*の亜種としていたが、ここでは1913年の武田久吉の説に従って*P. modesta*の変種へと変更している。

昭和46年（1971年）、北海道大学農学部の伊藤浩司助手は「北陸の植物 第19巻第3号」に「Observation on Northern Japanese Plants (12)」を発表し、その中で *Primula sorachiana* Miyabe et Tatewaki について、新たに自らが採集した標本も含めた産地情報を整理し、詳しい観察結果を記載した。

昭和51年（1976年）、旭川大学の豊国秀夫教授は「旭川大学紀要 第4号」に「Index Plantarum in Regionibus Alpinis Hokkaidoensibus Sponte

Crescentium (3)」を發表し、その中にユキワリソウ類がリストアップされている。

P. modesta Bisset et Moore var. *fauriae* (Franchet) Takeda ヌキワリコザクラ

forma *ohtakei* Toyokuni et Nosaka シャリコザクラ

var. *matsumurae* (Petitmengn) Takeda レブンコザクラ

var. *modeata* ヌキワリソウ

var. *samanimontana* (Tatewaki) Nakai サマニユキワリ

P. sorachiana Miyabe et Tatewaki ソラチコザクラ

P. yuparensis Takeda ヌウパリコザクラ

(いくつかの白花品種は煩雑になるので除いた。

参考資料

(資料名 著者 出版社 出版年 論文名 執筆者 その他の順)

日本の固有植物 加藤雅啓・海老原淳 東海大学出版会 2011

日本高山植物図譜 奥山春季 誠文堂新光社 1966

世界のプリムラ 世界のプリムラ編集委員会 誠文堂新光社 2007 プリムラ属植物の分布とその分類 田淵俊人訳

プリムラの発見、紹介、育種小史 椎野昌宏訳

日本産のサクラソウ属 山口聰

「日本植物研究の歴史小石川植物園300年の歩み 大場秀章 東京大学総合研究博物館 1996 pdf

Journal of Ecology 91 2003 *Primula farinosa* L. D. J. Hambler・J. M. Dixo pdf

日本列島本州における コイワザクラ節 (sect. *Reinii*) 内2種4変種 杉原早紀 不明 pdf

造園雑誌 57巻1号 1993 近代日本における植物図鑑の発達とその背景 俵浩三 pdf

植物の学名を読み解く 田中學 2012 pdf 自費出版デジタル

野生のサクラソウ ガーデンライフ・東京山草会 誠文堂新光社 1977 日本のサクラソウの分布 井上健

日本のサクラソウの種類 井上健

日本のサクラソウの仲間の生態 斎藤常夫

自生地に学ぶユキワリソウの仲間 高橋幹男

サクラソウの仲間 文化史 大垣晃一

日本のサクラソウの研究史 井上健

造園雑誌 57 (1) 日本造園学会 1993 近代日本における植物図鑑の発達とその背景 俵浩三

ふるさと No.11 (アボイ岳植物研究の先達) 様似郷土館 1998

増訂新版 羅和辞典 田中秀央 研究社 1952

植物学ラテン語辞典 豊国秀夫 至文堂 1987

図説植物用語事典 清水建美 2001年 八坂書房

植物分類, 地理 28巻 4-6 号 1977年 日本植物分類学会 大井次三郎博士の伝 北村四郎 pdf

舘脇 操先生小伝 北海道大学総合博物館ボランティアの会 2016~2017 五十嵐恒夫 pdf